

五輪開催中のコロナ感染拡大

1週間前の8日の毎日「日曜くらぶ」、松尾貴史のちょっと違和感。松尾さんらしいタッチで東京五輪とコロナ感染拡大をつづり、「菅首相に危機感みえない」と。菅首相イラストも松尾さん。抜粋して紹介する。

新型コロナの感染拡大が止まらない。以前から東京オリンピック・パラリンピックの中止を訴えていた人ばかりではなく、このウイルスのまん延はオリンピックの悪影響であると感じている人も多くなっている。「大会が始まった時期と照らし合わせて、五輪のせいではない」と強弁する人がいるが、変異株が次々と国内に流入したのは、大会準備期間中から、さまざまな関係者を受け入れるため、あるいは「無観客で開催するほど深刻な状況ではない」という印象操作の一環なのか、水際対策をゆるゆるにしてきたことが影響していることは明白だ。選手や大会関係者、報道関係者からの直接の感染ではなくとも、オリンピックが気の緩みにつながり、状況の悪化を招いていることは確かだ。

新型コロナの感染拡大を収束させることに最も効果的なことは、一刻も早く東京オリンピック・パラリンピックを中止することだ。打つ手がないのではなく、五輪開催の足かせで、効果の出ない対策を国民に「お願い」するしか選択肢が残っていないという話だ。選手たちの鍛錬や努力、挑戦は輝かしいもので、称賛に値することは確かだが、政府が感染拡大を受けて緊急事態宣言を発出しつつ祭典を繰り広げ、しかし国民には「危機感を持ってください」という矛盾は、小学生も感じているだろう。

「オリンピックの成功が、人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証しだ」などというよまい言が、いかにむなしいか。病床が逼迫して医療崩壊が起き、感染して症状が急変しても入院させてもらえず自宅で亡くなる方が増えた時に、「開催できたから新型コロナに打ち勝った」という寝ぼけたことが言えるのか。こてんばに「新型コロナに打ち負かされた」ということにほかならない。菅首相のかねてのスローガン「自助うんぬん」が、これほど冷酷で身勝手なものであるということを強く心に留め置きたい。そして、菅氏からは危機感がみじんも感じられない。



記者から「危機感を共有するために何が大切と考えるか」を問われた菅氏は「国民に危機感を持っていただくことが大切だ」という、全くもって訳のわからない答えをしてみせた。聞かれたことにまともに答えないのは従来通りだが、記者の向こうにいる国民に対して真摯に語り掛ける意思など持ち合わせていないということここまであからさまに見せつけられては、もう天を仰ぐほかない。

(2021年8月15日)